まことの道　十一月　霜月　しもつき

精励恪勤

せいれいかっきん

ちから つ
力を尽くして
しょくむ ちゅうじつ はげ
職務に忠実に励むこと

家庭祭祀のおすすめ

親から子
子から孫へ
伝えていきたい
祈りの心



【七五三詣とは】

三歳　髪置（かみおき）
男の子
女の子
の祝い

五歳　袴着（はかまぎ）
男の子の祝い

七歳　帯解（おびとき）
女の子の祝い

神奈川県神社庁
ウェブサイト

神奈川県神社庁　〒235-0019 横浜市磯子区磯子台20-1　TEL 045(761)6387　FAX 045(761)0100　Email:k-jinjacho@kanagawa-jinja.or.jp　神社庁ホームページ https://www.kanagawa-jinja.or.jp/

●七五三

一般には男児は三歳と五歳、女児は三歳と七歳のときに晴着をまとい氏神様にお参りし、成長を感謝し今後の無事の成育を祈願します。

七五三は、古くからの風習である三歳の「髪置（かみおき）」、五歳の「袴着（はかまぎ）」、七歳の「帯解（おびとき）」に由来するといわれ、「髪置」は男女児ともにこの日を境に髪を伸ばし始め、「袴着」は男児がはじめて袴を着け、「帯解」は女児がそれまでの幼児用の付紐をやめ、帯を使用し始める儀式でした。

現在のように、七五三を11月15日に盛大にお祝いするようになったのは江戸時代からのことで、五代将軍徳川綱吉が息子の徳松の健康を盛大に祈願したことから、それが庶民に広まったといわれています。

●新嘗祭

新たに穀物が収穫できた事を神様に感謝するお祭りで、五穀の豊穣を祈願する『祈年祭』とともに古くから行われています。「新嘗」とは新穀を神様にお供えすることを意味し、稲作を中心に発展してきた日本を象徴する重要な祭儀とされています。宮中では天皇陛下が新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後、陛下自らも新穀を召し上がります。多くの神社では11月23日に行われています。

神奈川県神社庁

〒235-0019 横浜市磯子区磯子台20-1
TEL：045（761）6387 FAX：045（761）0100
E-mail：k-jinjacho@kanagawa-jinja.or.jp

ご自由に一枚ずつお持ち下さい。

神様の恵みに感謝しましょう。

たなつもの　百（もも）の木草も　天照（あまてら）す
日の大神（おほかみ）の　恵えてこそ
朝宵（あさよひ）に　もの食（く）ふごとに　豊受（とようけ）の
神の恵みを　思へ世の人

本居宣長（江戸時代の国学者）

食事の時の「いただきます」や「ごちそうさま」。皆さんはきちんと言っていますか？前歌は食前感謝のうた、後歌は食後感謝のうたです。
「日の大神」とは、皇大神宮（内宮）のご祭神 天照大御神さま。
「豊受の神」とは、豊受大神宮（外宮）のご祭神 豊受大御神さまです。

毎日食事ができるということ、生きていることは、神様の恵みをいただいているということです。

皆さんのご家庭でも神棚を設け、神宮大麻（じんぐうたいま）と氏神様（うじがみさま）をおまつりし、感謝の気持ちを持ってお参りしましょう。